



部長先生インタビュー

藤田医科大学医学部整形外科学講座 藤田 順之教授

— 同門会員で女性会員数は何名でしょうか？

同門会員 142 名の内、女性会員 16 名で、11.2%を占めています。

— 貴教室のホームページでは、研修コースが丁寧に示されていますが、産休・育休・介護休暇などで中断せざるを得ない場合も、この研修コースに速やかに戻することは可能でしょうか？

もちろん可能です。我々のプログラムでは、産休、育休の方は多数いらっしゃいますし、時短勤務やフレックスタイム制度なども積極的に導入しており、女性には働きやすい環境であることを自負しています。

— 初期研修期間中メンター制度（指導医が、研修医の相談役を務める）のようなものはありますでしょうか？

正式なメンター制度は導入しておりません。比較的同門数が少なく、アットホームな環境ですので、組織としてメンター制度をとるほどではないというところです。ただし、我々の主要な関連病院では、相談にのってもらえる 40 代、50 代の女性医師が少なくとも一人は勤務しているのが特徴です。

— 専門領域を決めるにあたっては、本人の希望はどの程度考慮されるのでしょうか？

100%です。

— 地域的に遠方への赴任も多いのではないかと推測されますが、育児・介護などの家庭的な状況も考慮されるのでしょうか？

もちろんです。育児・介護などの家庭的な問題だけでなく、パートナーとの関係なども考慮することがあります。比較的小さな医局ですので、融通を利かすことが出来るのが特徴です。

— 専門性を追求するにあたり、短期・中期の国内留学のような研修制度はありますか？

海外留学だけでなく、優れた施設への国内留学も推奨しています。

— 育休・介護休などで、長期休職後の臨床への復帰にあたり、支援体制はつくっておられるのでしょうか？

作っております。我々のプログラムや関連病院においては、すべて常勤が 8 名以上在籍していますので、比較的、復帰後の支援体制は作りやすくなっています。

— 最後に医学生・研修医の先生・女性医師への応援メッセージをお願いいたします。

当教室においては、男性医師においても保育園のお迎えをしたり、子供の看病のために勤務を休むことは、全く咎められません。これからは男女共働きが更に増えてまいりますので、是非みんなで、男女問わず、もっと働きやすい

環境をつくってまいりましょう。

最後に、当教室の女性医師からのメッセージです。「整形外科は女性医師にお勧めです。扱う分野が広く（脊椎、上肢、下肢、腫瘍、小児）、手技も多岐にわたり、内科的治療（骨粗鬆症や関節リウマチ治療など）にも関われるなど、多くの選択肢の中から自分に向いている専門分野を選べますよ。」